

# 病院だより 4月号



士幌町国保病院  
院長 藤原 大輔

## 画像検査について

だんだん春めいてきましたね。みなさまいかがお過ごしでしょうか。今回はよく聞かれる画像検査の違いについてお話しします。軽い読み物ですから流し読みしてください。

まずレントゲンですが、これはエックス線という光に似た性質をもつものを身体に当て、通り方の違いで画像を作ります。骨は白く、空気は黒く写ります。得意なことは骨折、肺炎、心臓の大きさなどです。検査は数秒で終わり、安価なことも特徴です。イメージとしては「影絵」という感じでしょうか。

CTは同じくエックス線を使うのですが、身体の周りをぐるぐる回りながら撮影することで輪切り画像を作ります。得意なことは、出血、腫瘍、内臓の病気、骨折の詳細などです。検査は数分で終わり、レントゲンよりも情報量が多いことが特徴です。救急では必須の検査と言えるでしょう。

MR Iはエックス線は使わずに磁石と電波で身体の中の水分量を見ています。得意なことは脳梗塞、脳腫瘍、椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折などです。とても細かいところまでわかっていいのですが、検査は20～40分と長時間かかることが特徴です。また、閉鎖空間に入って検査をするので閉所恐怖症の方には難しいという特徴もあります。体の中の組織の精密写真という感じです。

当院にはレントゲンとCTはありますが、MR Iはありません。MR Iは機器自体が高額なのと、設置する部屋のシールド工事などが必要になるので、数億円単位のお金がかかるようです。

ひとつ面白い話ですが、日本は人口当たりのCT・MR Iの台数が世界一と言われてます。CTで言えば、日本では100万人当たり110台に対して、アメリカでは40台ほどと言われています。費用もかなり違いまして、日本でCTを受けると5,000円ほどですが、アメリカでは10～30万かかります。また受けるまでに数週間待たされることも多く、日本のように希望時すぐCTというわけにはいかないです。

レントゲン・CTの被ばくについて心配される方もいるかもしれませんが、被ばくで問題になるのが胎児の催奇形性と発がんですが、どちらも通常の医療で受ける範囲では全く問題ないとされています。乱用は避けつつ必要な時には躊躇なく行うのが大事です。

### 【お知らせ】水曜日の小児科診療医師が変更となります！



4月2週目以降から、小児科の担当医が次のとおり変更となります。

水曜日は4月より着任する川原 義典（かわはら よしのり）医師が診察を行います。

診 療 曜 日	月	水	金
午前診療（ 8：40～11：30受付）	（休 診）	川原 義典	（休 診）
午後診療（13：15～16：00受付）	清水 重男	（休 診）	清水 重男

お子さまの発熱・風邪症状など、お気軽にご相談ください。



◀ 国民健康保険病院ホームページ（休診情報等はこちらにも掲載しています）  
お電話でのお問い合わせは ☎5-2106 まで